

常照

第866号

うちの寺には和尚がない

先日、町内の新年会に招待されました。乾杯が終わり司会の方から「しばしご歓談ください」と挨拶があり、近くの人と話をしていた時です。突然隣の席の方に「ところで和尚さんは」と話しかけられ、思わず固まってしまいました。「私、和尚ではないんですよ」と話の腰を折るのも悪いので、なんとなく会話を続けましたがなかなか座りの悪いものです。

ちなみに、この和尚さんという言い方。「おしようさん」と読む方が多いと思いますが、宗派によって読み方が異なるそうです。真言宗では「わじよう」、天台宗では「かしよう」とも呼ぶそうです。そもそも和尚とは修行を積んだ高僧のことです。戒を授ける僧侶であります。もっと簡単にいうと「先生」ということでもあります。

仏教では師匠と弟子、師弟関係を通して仏道修行に励んでいます。親に代わるくらいの役割を担う方が師匠であり先生、和尚さんなのです。師は師、弟子は弟子。弟子の理解度や修行の進捗状況を把握し本人に知らせるためにも師匠と弟子がハッキリしていないとダメなのです。どれだけ優秀でも生徒は生徒。先生は先生というところがわかりやすいでしょうか。

冒頭で私は和尚ではありませんと言いかけてましたが、そもそも浄土真宗の寺院には和尚さんがいません。たぶんみなさまも言葉は知っていても口に出して呼んだことはないはずです。「じゃあ浄土真宗には、和尚と呼べるような立派な先生はいないのか？」と問われると、「いません」と答えます。もちろん知識が豊富な方、聞きほれるような読経、涙を流すほどにありがたいご法話をしてくださる方を先生とお慕い申しあげることがありますが、和尚と呼ぶことはありません。浄土真宗は師匠と弟子の師弟関係ではないのです。

弟子一人も持たず

浄土真宗の宗祖親鸞聖人の語録とも言われている歎異抄という書物の中に

「親鸞は弟子一人も持たずさうろう」という言葉が出てきます。弟子がいないとはどういう理屈でしょうか？

親鸞聖人は続けて、なぜ弟子がいないのか理由を説明されます。いわく【私の手柄で人に念仏を称えさせているのではないからだ】と仰るのです。阿彌陀さまのおはたらきによって念仏申している人をわが弟子などということは、とんでもないことだと。そもそも私たちにはお念仏申すご縁もあれば、反対に離れるご縁もある。縁がとどのい阿彌陀さまのご恩を知ることがあれば、師の恩をも知るはずです。と、こんな風に語られました。おそらく当時から【わが弟子ひとりの弟子】なんて争いがあったのではないかと推測されます。

親鸞聖人は法然聖人を師と仰がれま

した。そして親鸞聖人を慕う人は、親鸞聖人の弟子と違っていらっしやっただでしょう。ただ、親鸞聖人ご自身は師匠とも先生とも思うことはなかったのです。代わりに親鸞聖人は同じ教えを喜んだ人を仲間だと大事にされました。

御同行、とも同朋

親鸞聖人のお手紙『御消息』を拝見しますと、共に念仏の教えを聞き、お念仏称える人を「御同行」、「とも同朋」と記されていることに気づきます。

同行というのは、一般には連れ立っていくことで、心を同じくしてともに仏道を歩む人びとを言います。同朋というのは仲間とか友人という意味ですが、この場合は師を同じくし、その教えを共に聞き、その教えを拠りどころ

として生きる人のことを言います。

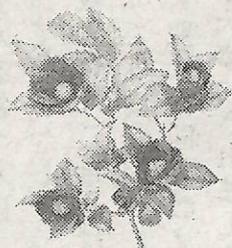
さらに親鸞聖人は「御」の字をつけて呼ばれました。阿弥陀さまの平等に注がれる大きな慈悲に包まれ、ともに浄土に生まれていく。いずれは仏となられる尊いお方だと念仏の教えを喜ぶ人々の平等さと敬いの思いを示されたものといえます。師弟でなくお坊さんも大衆もともに、拝みあえる仲とも申しましようか。

何と呼ぶ？

なので私たちは、僧侶からもお寺の檀家さん（ご門徒さん）からも和尚と呼ばれることはないのです。呼ばれることはないというより、和尚さんがいないのが浄土真宗のお寺なんです。

対外的にはお寺の住職、宗教法人と

しては代表役員という区分になります。他にも副住職やら寺族と呼ばれますが、見分けるのは難しいので、まあ〇〇寺さんとかお寺さんと呼んでいただくことが多いです。ですから和尚と呼ばれるような大層なお坊さんではなく、親鸞聖人と同じ道を行くお仲間だと親しくしていただけると幸いです。そしてそれは親鸞聖人から私たちに向けられた「お坊さんの恰好をしてるけど先生のように偉そうに振舞わないように」というメッセージなのかもなあという味わいです。南無阿弥陀仏



発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院

電話 (〇二三四) 二二一〇七四番
 FAX 二九一四〇八〇番
 テレホン法話 二七一六一六番

親鸞におきては、

ただ念仏して

弥陀にたすけられ

まいらすべしと、

よきひとのおおせまかぶりて

信ずるほかに、

別の子細なきなり

數異抄